

カラフル

2023.08 No.05



夏休みのまほら館

7月21日から夏休みに入りました。まほら館は、補習期間も開館しています。

7 月							8 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	1	🍉	🍉	①	②	③	④	5
2	3	4	5	6	7	8	6	7	⑧	⑨	⑩	11	12
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
16	17	18	19	20	⑳	22	20	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26
23	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	29	27	㉘	㉙	㉚	㉛	🍉	🍉
30	㉙	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉	🍉

夏休みの貸出

- ◇貸出冊数 1人10冊
- ◇貸出期間 7月17日
～8月31日
- ◇返却日 9月4日



お知らせとお願い



- ★ ○のついている日は終日開いています。
- ★ 台風などで予告なく休館になることがあります。
- ★ 探している資料があれば、いつでも司書に聞いてください。一緒に探します！
- ★ 探している本がまほら館にない場合は、購入することもできますが、少し時間がかかります。余裕をもって探しに来てください。



新刊案内



1 不可能を可能にする大谷翔平 120の思考 / 大谷 翔平著 (びあ)

二刀流、170km、メジャー…。不可能を可能にする大谷翔平の「思考」は、私たちの日常にも進むべき光を与えてくれる。大谷が発した120の言葉を取り上げ、それに解説を添えたメッセージ集。



2 コメンテーター / 奥田 英朗著 (文藝春秋)

ワイドショーに出演することになった精神科医・伊良部とマユミ。放送事故寸前のコメントを連発するが、それは暴言か、はたまた金言か!? トンデモ精神科、復活! 表題作など全5編を収録する。



3 君が僕にくれた余命363日 / 月瀬 まは著 (スターツ出版文庫)

幼いころから触れた人の余命が見える瑞季。ある日、席替えで近くなった花純に「よろしく」と無理やり握手させられ、彼女の余命が少ないことが見えてしまう。青春純愛物語。



4 昨日星を探した言い訳 / 河野 裕著 (KADOKAWA)

全寮制中高一貫校に進学した坂口孝文は、茅森良子と同級生になる。総理大臣になることを目指す茅森と親しくなった坂口は、彼女がある映画監督の幻の脚本を探していることを打ち明けられる。



5 恋とそれとあと全部 / 住野 よる著 (文藝春秋)

めえめえ(瀬戸洋平)は下宿仲間でクラスメイトの女子サブレ(鳩代司)に片想いをしている。サブレは夏休み中、ある“不謹慎な”目的のため、遠方にあるおじいちゃんの家に行くのだが、めえめえは思いがけずそこに誘われて…。



6 宝島社文庫 劇場版 TOKYO MER 走る緊急救命室 / 黒岩 勉 脚本 百瀬 しのぶ ノベライズ (宝島社)

みなとみらいのランドマークタワーで火災発生。数千人が逃げ惑う現場に到着した TOKYO MER の前に、厚生労働大臣により創設されたエリート集団 YOKOHAMA MER が現れ…。



105×173mmに詰め込んだ教養



7月は全校生徒で読解力トレーニングの時間に新書を借りて読んでみました。

「新書」とは新しい本ではありません。専門書の入門的な内容となっている**105×173mm**くらいの大きさの本を指しています。

最初から読まなくても、もくじをみて、自分の好きな章から読むこともできる新書は、**忙しい高校生と相性のいい本**と言えます。他の人のレビューを読んでみて、気になった新書がある人はぜひこの夏に借りてみてください。

★生徒のみなさんが書いた『新書を読んだ感想』より紹介します★

「すみません」の国 / 榎本 博明著 (日本経済新聞出版社)

実は迷惑なのに「遊びに来てください」と誘う。「それはいいですね」と言いつつ暗に拒否。ホンネトークと銘打って本当のホンネは話さない。なぜ日本人はこれほどわかりにくいのかを教えてくれる1冊でした。日本人独特の感性を持っていて、他の国では理解されづらい日本人らしさを感じられる1冊でした。日本ならではのコミュニケーションの深層構造を心理学者が解剖していてとても面白かったです。

新100のきほん / 松浦 弥太郎著 (マガジンハウス新書)

僕はこの本を読んで良いなあと思った言葉がありました。それは「全肯定。すべてを受け入れる。」という言葉です。僕は、全肯定して受け入れることが出来ていませんでした。自分が納得いかないことには、いつまでたっても受け入れられていなかった。でも、これからはこの言葉のように全てを受け入れ、この自分の良くない所を直していけたらいいと思った。

心にしみる天才の逸話20 / 山田 大隆著 (講談社ブルーバックス)

世の中で天才と言われる人達にも苦悩や努力があったということを知れた。例えば、ファラデーは家庭の事情で小学校さえ出ていないが、自分の情熱を化学者にノートで伝え、素人からの叩き上げで、電磁誘導をはじめとする数々の電磁気学の発見をした。このことから、天才と呼ばれている人も自分と同じで、ただ人よりも努力をしているすごい人たちだと思った。

読書する人だけがたどり着ける場所 / 齊藤 孝著 (SB新書)



この本は、分からないことがあればスマホでネット検索すれば大丈夫だから本は読まないとする人に向けて、警鐘をならしています。この本を読んで自分もすぐにスマホで調べて本を読まなくなっていることに気が付きました。今後は本をたくさん読んでいきたいです。

脱コンビニ食! / 山田 博士著 (平凡社新書)



まず、私は「栄養学」という分野に興味があり、本のタイトルに目がいき、この本を選びました。コンビニ食は「無国籍食」「無愛情食」「無重量食」「無感動食」であることに納得しましたが、つい食べてしまうので良くないなあと感じました。また、身体にだけではなく、心に有害なものもあるということを知り、とても驚きました。1人暮らしになってもできるだけ自炊をして生活していきたいです。

本物の英語力 / 鳥飼 玖美子著 (講談社現代新書)



今まで英語は発音を完璧にするべきだと考えていたが、発音を完璧にする必要はないということはこの本を読んで学ぶことができた。英語の授業でよくするシャドーイングというものは同時通訳の基礎訓練であるということも初めて知った。これからのシャドーイングを大切にしようと思った。

友だち幻想 / 菅野 仁著 (ちくまプリマー新書)



この新書を読むと、人との関係を見直す良い機会ができました。新書の中で、日本・アメリカ・韓国の高校生に「若いうちにやっておきたいこと」を調査したところ、アメリカと韓国は「偉くなりたい」「自分をみがきたい」と答える人が多いのに対し、日本は「一生つきあえる友人を得たい」など人との深い関わりを持ちたがるのが分かりました。人とのつながりを上手く築き上げるのはとても難しく、誰もが人との関わりで問題や悩みを抱えているということを知ることができました。

ふだんはあまり本を読まない生徒や、読書好きとはいえ、自分の好きな小説しか読まない生徒、初めて「新書」を知った生徒など、「新書って意外と面白いかも」と感じたそこのあなた!

ぜひ自分の教室やまほら館でイチオシの新書を紹介してください。

